



ひとが育ち まちが育つ みんなでつくろう 明るいふるさと いけだ
池田町



池田町基礎データ

総人口 (住基台帳)	6,327人 (R3.8末時点)	製造品等出荷額	13,579百万円 (R1工業統計)
高齢人口 (高齢化率)	43.62%	卸・小売年間販売額	7,582百万円 (H28経済センサス)
世帯数	3,307世帯	一般会計規模	14,022百万円 (R3当初予算額)
人口密度	17.02/km ²	町の花	ツツジ
面積	371.79km ²	町の木	サクラ、カシワ
農業産出額	7,650百万円 (R1市町村別農業産出額)		

池田町の紹介

池田町は、北海道東部「十勝平野」の中央やや東寄りに位置し、東西25km、南北32km、面積371.79km²の広さを有しています。地勢は平たんで、山岳部でも海拔100~200mを超える程度で、東は浦幌町、西は音更町および幕別町、南は豊頃町、北は本別町及び士幌町に接しています。

気候は、夏は30℃を超える日もあり、冬は氷点下20℃を下回る日も少なくないため、1年の寒暖の差は50℃以上になります。降雨量、降雪量ともに十勝管内では比較的少なく、日照時間は道内一の長さに恵まれ、“十勝晴れ”と呼ばれる爽やかな晴天に恵まれることが多く、十勝川と利別川に育まれた肥沃な大地で、基幹産業の農業が活発に営まれ、国内を代表する穀倉地帯の一躍を担っています。

古くから道東の3圏域を結ぶ交通の要衝として栄え、特急列車が停車し、道東自動車道のインターチェンジが設置されるなど交通の利便性が高く、札幌市からも車で約3時間、とち帯広空港からも車で約50分の距離に位置しています。

1963(昭和38)年には全国に先駆けて自治体によるワイン事業が開始され、「十勝ワイン」のブランド名で全国に出荷しています。寒冷地ならではの独自のブドウ栽培・品種開発、辛口・熟成にこだわる本物志向のワイン造り、まちをあげてのワイン事業は、まさに

池田町の特徴あるまちづくりを進める象徴的な存在となっています。十勝ワインの製造場である「池田町ブドウ・ブドウ酒研究所(以下、通称「ワイン城」)には、年間約25万人の観光客が訪れ、道東地区を代表する観光施設であるとともに、池田町が進める「食と観光」「ワイン観光」の拠点施設となっています。



醸造用ブドウ「清見・清舞・山幸」を品種開発



ワイン城前庭ブドウ園に8000ℓの大樽を配置

2021（令和3）年度から第5次総合計画をスタートし、「ひとが育ち まちが育つ みんなでつくろう 明るいふるさと いけだ」をまちの将来像として掲げ、基幹産業である農業を中心とした産業の連携・発展、恵まれた自然環境の維持・保全、特徴ある地域文化の伝承を土台とし、「まちづくりは人づくり」の考え方のもと、次世代を担う子どもたちが健やかに育ち、地域で暮らす人々の笑顔が輝き、だれもが住みたい、住み続けたいと思えるまちづくり・ふるさとづくりを目指し、各種施策を展開しています。

2020（令和2）年6月にワイン城がリニューアルオープン！

ワイン城は、施設の耐震化や設備の長寿命化、さらには魅力向上を図るため、2017（平成29）年度にワイン製造棟（スパークリングワイン製造エリア等）の改修・施設公開を皮切りに、2018（平成30）年度にはブランデー蒸留室、2019（令和元）年度にはワイン城本館と外構の改修工事に着手し、2020（令和2）年6月20日にリニューアルオープンしました。

地下2階の地下熟成室には、約170本ものワイン熟成樽が並ぶほか、貴重なオールドビンテージワインが保管されていて、ワインの熟成環境を肌で感じることができます。



地下熟成室 ※感染症対策で閉鎖の場合あり

1階にはショッピングエリアがあり、十勝ワインをはじめとした池田町の特産品などが豊富に取りそろえられているほか、大きな貯酒タンクの中をイメージさせる特徴的な曲面

壁の一角に試飲コーナー（有料）が設けられています。また、ショッピングエリアからブランデー蒸留室を見学することができます。



ショッピングエリア

2階には、池田町のブドウ栽培やワイン造りの歴史を知ることができる廊ミュージアムのほか、ワインやブドウに関する本を備えたライブラリスペースがあります。

4階にはレストランがあり、ワインと一緒に池田町や十勝産の食材を取り入れたメニューが楽しめます。レストラン前には、軽食を楽しめるフードカウンターコーナーがあり、ワインや各種ドリンク、ワインに合うおつまみや各種スイーツが楽しめます。

ほかにも、十勝ワインやブランデーの製造施設を案内するワイナリーツアー（有料・試飲含む）、平日（月・水・金）限定ミニワイナリーツアー（無料）も開催し、ワイン造りを五感で楽しめる施設として魅力を高めています。さらには、ワイン事業の経済的効果に加え、町と町民で一緒に育ててきた独自のワイン文化を継承、発展、発信する施設として、ワイン城の存在感は増しています。池田町にお越しの際は、ワイン城へぜひ足をお運びください。

いきがい焼による健康づくり・生きがいづくり

池田町いきがいセンターでは、60歳以上の高齢者の皆さんが「いきがい焼」を制作しています。当時の町長、故丸谷金保氏がフランスの養老院を視察した際に、生き生きと軽作業に取り組む高齢者の姿に影響を受けて発案

し、1972（昭和47）年から50年近く続いている高齢者向け陶芸事業です。職員の指導のもと、町内で産出する粘土を利用して、高齢者が湯のみや皿、花瓶、置物などの作品を自由に制作しています。

作品には、制作者が自由に値段をつけ、売り上げの半分は制作者へ、残りの半分は原材料費（粘土・釉薬などの経費）として運営費に充てられています。

「高齢者に対して創造的活動の場を提供し、高齢者が老後の生きがいを高め、もってその生活を健康で豊かなものとする」この理念のもと、創作活動が続けられています。



いきがいセンター



いきがい焼

ふるさとを想う気持ちを醸成し、 将来の夢を育む子ども夢事業

2007（平成19）年度で閉鎖した町営レストラン事業の清算金とふるさと納税を財源とし、未来を担う人材の育成を目的とする「子ども夢事業」に取り組んでいます。町内の幼稚園や保育園、小中学校、高校のほか、町内を拠

点として活動する団体やグループ、町内に事業所を有する事業者の方などを対象とし、高校生以下を対象とした体験・交流事業や人材育成事業の取り組みに対し、補助金を交付する事業です。

補助金を交付し、事業実施の一助となることにより、子どもたちのふるさとを想う気持ちを醸成し、将来の夢を育むことを目的としています。

国際交流

池田町とカナダ・ブリティッシュコロンビア州のペンティクトン市は、1977（昭和52）年に国際姉妹都市宣言に調印して以来、親善訪問団の相互訪問を行っています。

ペンティクトン市は、温暖で風光明媚な観光地として知られ、近年はオカナガンワインの主産地としてワイナリーが急増しています。

2017（平成29）年に国際姉妹都市締結40周年を迎え、ペンティクトン市からの訪問団を9年ぶりに受け入れ、翌年には7年ぶりに本町の訪問団がペンティクトン市を訪問し、市民の皆さんと交流しました。これまで、中学生・高校生のホームステイ事業などを含め、千人を超える皆さんが互いのまちを訪れ、友好を深めています。



カナダ・ペンティクトン市を訪問し交流

池田町の四季



【春】清見ヶ丘公園の桜



【夏】肥沃な大地で育つ小麦



【秋】寒冷地に適した独自のブドウ栽培



【冬】ワイン城から見る夕日